

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】令和4年8月3日(2022.8.3)

【公開番号】特開2022-66257(P2022-66257A)
 【公開日】令和4年4月28日(2022.4.28)
 【年通号数】公開公報(特許)2022-077
 【出願番号】特願2022-25714(P2022-25714)
 【国際特許分類】

C 0 8 L 2 7 / 1 8 (2 0 0 6 . 0 1)
 C 0 8 L 1 0 1 / 0 0 (2 0 0 6 . 0 1)
 C 0 8 F 2 6 5 / 0 6 (2 0 0 6 . 0 1)
 C 0 8 F 2 1 4 / 2 6 (2 0 0 6 . 0 1)
 C 0 8 F 2 / 2 2 (2 0 0 6 . 0 1)
 C 0 8 J 9 / 0 0 (2 0 0 6 . 0 1)

10

【 F I 】

C 0 8 L 2 7 / 1 8
 C 0 8 L 1 0 1 / 0 0
 C 0 8 F 2 6 5 / 0 6
 C 0 8 F 2 1 4 / 2 6
 C 0 8 F 2 / 2 2
 C 0 8 J 9 / 0 0 A C E W

20

【手続補正書】

【提出日】令和4年7月26日(2022.7.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

30

【特許請求の範囲】

【請求項1】

テトラフルオロエチレンに基づく単位と、非フッ素系単量体に基づく単位と、を含む変性ポリテトラフルオロエチレンの粒子であって、

以下の方法で算出される吸熱量比 R が 0.65 以上であり、
前記変性ポリテトラフルオロエチレンにおける前記非フッ素系単量体に基づく単位の含有割合が、前記変性ポリテトラフルオロエチレンにおけるすべての単量体に基づく単位の含有量に対して、1 ~ 500 ppm であり、
前記非フッ素系単量体が、式(1-1)で表される単量体、および、式(1-2)で表される単量体からなる群から選択される単量体であり、
平均一次粒子径が 0.10 ~ 0.50 μm である、変性ポリテトラフルオロエチレンの粒子。

40

吸熱量比 R 算出方法：300 以上の温度に加熱した履歴がない前記変性ポリテトラフルオロエチレンを用いて、昇温速度 20 /分にて示差走査熱量計により測定を行い、得られる示差熱曲線において、340 超に位置する吸熱ピーク温度 T_p から 2.5 低い温度を温度 T_m とし、310 ~ 温度 T_m の温度範囲における吸熱量 S₁ および温度 T_m ~ 360 の温度範囲における吸熱量 S₂ を求め、吸熱量 S₁ に対する吸熱量 S₂ の比を吸熱量比 R として算出する。

式(1-1) $CH_2 = CR^1 - CO - O - R^3$

式(1-2) $CH_2 = CR^1 - O - CO - R^4$

50

R 1は、水素原子またはアルキル基を表す。 R 3は、水素原子またはアルキル基を表す。
R 4は、アルキル基を表す。

【請求項 2】

前記吸熱比量 R が、0.75 ~ 2.50 である、請求項 1 に記載の粒子。

【請求項 3】

前記変性ポリテトラフルオロエチレンがフッ素系界面活性剤を含まない、請求項 1 または 2 に記載の粒子。

【請求項 4】

前記変性ポリテトラフルオロエチレンが、フッ素系界面活性剤の不存在下でテトラフルオロエチレンを重合して得られた変性ポリテトラフルオロエチレンである、請求項 3 に記載の粒子。

10

【請求項 5】

前記変性ポリテトラフルオロエチレンが、前記非フッ素系単量体に基づく単位を含む重合体が存在する水性媒体中でテトラフルオロエチレンを重合して得られた変性ポリテトラフルオロエチレンである、請求項 3 または 4 に記載の粒子。

【請求項 6】

ペースト押出成形用である、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の粒子。

【請求項 7】

請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の粒子がペースト押出成形されてなる成形物。

【請求項 8】

請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の粒子をペースト押出して押出ビードを得て、前記押出ビードを延伸して延伸多孔体を得る、延伸多孔体の製造方法。

20

30

40

50